



タンザニア

BOP層実態調査レポート

- 調査実施日：2012年9月
- 調査場所：ダルエスサラームの病院
(ムヒンビリ・ホスピタル、アマニ・ホスピタル、マニヤマニヤラ・ヘルスセンター、マチブグルニ・ホスピタル)

医療機関

タンザニアの医療機関は大きく以下のように分類されている。
医療機関の総数は、2005年には5,250であったが、2011年には6,570に増加した。

①	Dispensary	6,000～10,000人対象の地域の診療所 5,132、うち公立3,773。
②	Health Center	郡の人口に相当する50,000人が対象 684、うち公立449。
③	District Hospital	各県に一つの病院が原則とされている 236、うち公立97。 ※以上の3種類の医療機関には、宗教団体やNGOが設立した機関も多い(全体の16%)。
④	Regional Hospital	州に一つの州立病院があることとされているが18しかない(現在25州)。すべて公立。地域の病院ではできない専門的な治療をする。
⑤	Special Referral Hospital	ダルエスサラームのムヒンビリ(Mhimbili)、モシのKCMC(Kilimanjaro Christian Medical Centre)、ムワンザのBugando Hospitalなど、国の最高医療を提供する総合病院が6つある(2010年)。

テムケ病院 入口



テムケ病院 待合室



ムヒンビリ病院



健康診断

現在、国内の公立医療機関で以下は無料で受けられる。

- 5歳未満の健康診断、予防接種、診療、治療。
- 妊婦の検診、出産、産後の健康診断、家族計画。
- HIV/AIDSの血液検査。陽性者の健康相談と治療薬配布。
- TB(結核)検査。

医者

医者には医大を出たメディカルオフィサーという正規の医者と、アシスタントメディカルオフィサーという医療助手があり、明確な区別がある。医療助手は医療系専門学校1年を卒業した後、ヘルスオフィサーとして3年の臨床経験を積み、その後2年の専門学校を卒業して資格を取得する。地方のヘルスセンターには奨学金を利用して医療助手になった医者が多く配属されている。

2007年のタンザニアの西部のタボラ州の資料によると、州全体で病院7、ヘルスセンター18、診療所184となっているが、正規の医者は6人、医療助手は28人だけで病院数より医者の数が少ないという現状である。

ヘルスセンター、診療所には、クリニカルオフィサー(中学4年のOレベルを終えた後、2年間クリニカルオフィサーの勉強をして取得)とその助手、看護師などが配属されているのみである。



アガカーン病院

医療保険

民間の医療保険はあるが、高価なため加入者は少ない。公的な医療保険は、年金制度と医療保険が合わさった社会保障基金がいくつかあるが、対象は公務員や民間企業の社員で、加入者は限られる。

例えば民間企業の社員を対象としたNSSF(National Social Security Fund)の加入者は、配偶者と子ども4人までが無料で、登録病院で受診(投薬、検査、治療を含む)できる。登録した病院や時期によって差があり、医薬品がないからその治療はできないと言われるたり、現金を払う患者が優先されたりすることもあるようで、必ずしも納得のいくサービスが受けられるとは限らないようだ。

治療・診療

BOP層でセルフメディケーションと呼ばれる方法を取る者も多い。調子が悪いと感じたら薬局へ行き、薬剤師からそれに対応した薬を購入する。様々な種類の薬を医師の処方箋なしで購入することができるので、治療費を抑えることができる。しかし、薬剤師との相談だけで症状の専門知識なしに薬を選ぶのは少し危険である。また、昨年(2011年)ロリオンドの万能薬(木の根を煎じた飲み薬で、どんな病気でも治ると評判がたち、タンザニア国内だけでなく、近隣諸国からもその薬を飲むために人々が殺到した)騒動があったが、西洋医学の医療機関だけでなく、伝統的な医療に頼るものも多い。

マラリアチェックはTsh500(約25円)から受けられ、マラリア治療薬のムセトは政府価格はTsh1,000(約50円)である。しかし、マラリアだけでなく、病院で診療を受け処方箋をもらっても、病院にはその薬は置いてない場合が多いという。病院の向かい側にはいくつかの薬局があり、そこで定価か定価よりも高い薬を購入することになることが多いようだ。

地方に行くと、公立の病院よりも少し料金は高くても、ミッション系の病院の方が薬もあり、よい治療が受けられるので、BOP層でもミッション系を利用する者もいる。

数が増えたとはいえ、まだ地方の医療機関へのアクセスの悪さは問題となっている。タンザニア北部のセレンゲティ県の村から、マラリアにかかった5歳の弟をおぶって病院までの道のり25Kmを歩いた12歳の少年の話が新聞に載っていた。タンザニア全体でも医療従事者の数の不足が問題となっているが、地方はさらに問題が深い。地方への配属は敬遠される傾向にあるためである。



診療体験と診療料金例

1 モハメッド・アブダラ 25歳男性 食堂店長 独身(月収Tsh20万/約10,000円)

発熱・だるさを感じ近くの私立のヘルスセンターへ行く。受付でのカルテ作成(Tsh500/約25円)後、順番を待ち問診(Tsh3,000/約150円)を受け、マラリア(Tsh2,000/約100円)と腸チフス(Tsh3,000/約150円)の検査を受ける。これは顕微鏡で見るだけの簡単な検査をした場合の値段で、見逃す場合もある。検査で陽性が出れば薬の処方箋が出る。マラリア・腸チフスの薬とも、品質によるが、それぞれTsh3,000~30,000(約150~1,500円)程で購入する。



地域の診療所

2 サイド・アリ 27歳男性 店員 既婚 子ども1人 (月給Tsh30万/約15,000円)

体調がすぐれずに近くのヘルスセンターへ行く。カルテ作成(Tsh500/約25円)後、順番を待ち問診を受け、疲労と診断されて点滴を打つことに。点滴を打ち、1週間分の薬を処方されTsh10,000(約500円)を支払う。

子供が額を切り近くのヘルスセンターへ連れて行く。緊急なのでTsh2,500(約125円)を支払い、カルテ作成後に待たずに直接医師に診てもらふ。麻酔(Tsh5,000/約250円)を施し、5針縫った後、包帯を巻いてもらう。処置費用は全部でTsh15,000(約750円)、帰りに薬Tsh2,500(約125円)を処方された。1週間後に包帯の交換をしに行った際にTsh2,000(約100円)支払った。

3 サルマ・ジャクソン 32歳女性 会社員 子ども1人 (月給Tsh30万、約15,000円)

体調がすぐれずに近くのディスペンサリーへ行く。あまり信用はしていないが、家から近く、混んでいなくて値段も安いのでよく利用する。症状は、生理が5か月来ておらずお腹が大きくなり始めていて体がだるく調子が悪い。しかしピルを飲用していたという理由から腹痛の薬とマラリアの薬を処方され注射をして帰ってきた。治療費は注射・薬代込みでTsh50,000(約2,500円)。3日後、どうしても体調がすぐれずに母に相談しお金の工面をしてもらい大規模病院のアガカーンへ行き妊娠と診断される。



地域の診療所 待合室

JETRO

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。